

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

	コード	名 称		コード	名 称
事業名	349	老人ショートステイ事業	会計	01	一般会計
			款	03	民生費
基本施策	6	高齢者の健やかな生活を支える	項	02	老人福祉費
			目	01	老人福祉総務費
担当部課名		青山支所 健康福祉課	細目	102	在宅老人援護事業
作成者氏名	奥田 充法	連絡先 52-3228	細々目	02	老人ショートステイ事業

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	居宅において介護を受けることが一時的に困難になった高齢者およびその家族	介護者の介護負担の軽減と共に、要介護高齢者の生活を確保する。
本年度事業内容	在宅援護老人に対する緊急時における短期入所(ショートステイ)事業委託経費(延べ60日分)	
開始年度	平成 年度	終了年度 平成 年度 根拠法令・要綱等

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.2	0.2	0.2
	人件費合計(A)	1,440	1,440	1,440
②支出内訳(千円)	事業費(B)	0	438	438
	委託料		438	438
	その他			
	合計(A+B)	1,440	1,878	1,878
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担			
その他特財				
一般財源	1,440	1,878	1,878	
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
ショートステイ利用者	日	0	60	60			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
利用率	利用者 申請者	%	0 目標 (100)	100	100
			目標 ()		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

複雑化した社会状況の中、少子化・高齢化が益々進み、世帯人員の減少や共働き家庭の増加などにより家庭扶助機能が弱体化しており、この事業の必要性は大きいものがある。

評価	必要性	4	高齢化の進捗とともに「要介護」「要支援」認定者数が急増しており、介護に疲れた時や家庭の事情による介護ができない状況も増加し、これに伴い「老人ショートステイ」利用者は増加傾向にあり、これらの相談業務としての支所の役割は大きい。	総合評価
	有効性	4		
	達成度	2		
	効率性	4		
				A